

デビッド・ロビンス
ウォール セーフ スイート：デジタル展覧会

ここ数年に渡り制作したこのオンライン展覧会のための7つのビデオ作品は、おそらく遊びに見せかけたアートの資産化に対する不安を表現しています。

産業文明の逆流の中で水しぶきを上げながら、アーティストはこれまで以上にアート作品のある世界を意図しています。資本主義の下では、取引するものを持っていることは何も悪いことではありません。神は知っています。そして、現代アートが大衆に与えられたという事実を利用してみませんか？

長いことモダニズムアートを避けてきたのでしょうか？

それが何をもたらしたのでしょうか？背景は変化しました。モダンアートは文明です。モダニズムの芸術品は断固として、時には積極的に役に立たなかったため、現代美術と産業文明の功利主義的な考え方の間には緊張感が存在していました。現代美術は対照的にポスト工業的な情報社会を背景に展開されてきました。情報のカテゴリーがもうひとつ増えたと認識されま

す。みんなもうアートは元気です。

古い緊張はなくなり、新しい緊張感に置き換わります。アーティストは自由に好きなものを制作することができます。誰も大騒ぎはしません。

しかし、アーティストたちが制作する作品は何十万もの他のものと競合してしているのです。同時に、「コンテンポラリー」な美術作品はこれまで以上に制度的に整理されたものによりアンニュアル的に発表されていきます。「コンテンポラリーアーティスト」は常に肥大し続けるアートシステムに栄養を与え、またその中で栄養を与えているのでしょうか。

保証された現代美術の供給にて -50 年前を振り返ると一握りのアーティスト達は少し前のソーホーを想像したでしょうか？一権力はパイプラインを登り、アーティストの手から抜け出して行き、製品の流通をコントロールする人の手の中に行き着いています。

アーティストはもはやアート界をコントロールしていない。

そのような環境では、今日も多くのアートがノスタルジーな表現であることは疑う余地もありませんよね？

小麦と籾殻をどうやって区別するのでしょうかという疑問が、このアート作品の過剰供給の状況を考えた時に発生しますよね？

この無機な方法で、メガギャラリー、ブランディング、マーケティング、資産家をどう分けるのか。

今日、アート作品はあざ笑うことに対してではなく、その受け入れることによる副産物なのでしょう！

ホワイトノイズの資産価値を超えて、アート自体を聞くことはいまだ可能なのでしょうか？

はい、しかしながら私たちはそうできるように心に留めておかなければなりません。私たちは努力しなければなりません。

それは何か新しいことなのです。

そのような状況下でアートはどうなるのでしょうか？それを生み出すのはどういう意味になるのでしょうか？

私に聞かないでください。私だってショービジネスにいるんですよ。

2022年10月1日
デビッド・ロビンス